

## 「我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。」

わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください。(マタイによる福音書6章13節)  
…わたしたちを誘惑に遭わせないでください。(ルカによる福音書11章4b節)

主の祈りでは「こころみ」という表現になっていますが、聖書には誘惑と記されています。

試みには二つの意味があります。一つは試練で、もう一つは誘惑です。私たちが生きるゆえに、様々な試練と誘惑に遭うことは、必然的なことです。

ヤコブの手紙の中には「わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。(1:2)」「試練を耐え忍ぶ人は幸いです。その人は適格者と認められ、神を愛する人々に約束された命の冠をいただくからです。(1:12)」があります。ここには試練、そのものが 信仰の鍛錬として積極的な意味で使われています。そして、「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずで。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。(Iコリント10:13)」と耐えられない試練が多いこの世の中を歩む私たちに神さまの約束と慰めが与えられています。

しかし、このような試練が誘惑になることもあるのです。

創世記においては誘惑するものが第三者として存在しています。悪魔、サタン、悪しきもので人間は対抗することができない力を持っています。また、人格的な力をもって人間に働きかけます。

「誘惑に遭うとき、だれも、『神に誘惑されている』と言ってはなりません。神は、悪の誘惑を受けるような方ではなく、また、御自分でも人を誘惑したりなさらないからです。むしろ、人はそれぞれ、自分自身の欲望に引かれ、唆されて、誘惑に陥るのです。そして、欲望ははらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます。(ヤコブ1:13~15)」とヤコブ記者が言うように、私たちには誘惑に対する自己責任が問われます。

神様は私たち人間を自由な存在として造ってくださいました。その自由の中で、選択と決断が私たちに問われています。私たちは、その自由のゆえ、時には迷う現実と直面します。しかし、勝利する時に、その誘惑は試練になり、敗北する時に、死に至る道に陥ってしまうのです。悪しきものの誘惑の最終的な目的は神様から私たちを切り離すことです。天使のように偽って、神様を信じる心に不信を植え付け、真理の道から離れるようにするのです。その誘惑は人の弱さに噛みつき、人間の欲望の中に入り込みます。しかし、その恐ろしい能力がある誘惑に私たちは勝つことができないのです。では、どのようにすればよいのでしょうか。

イエスキリストによってのみ、打ち勝つことができます。それを知ることが大事です。誘惑が試練となるためには、主のみ名によって、誘惑するものを退け、主イエスの力にますます寄り頼み、主ご自身が戦ってくださることを祈るのです。それこそ、「我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」という祈りです。様々な困難の中を生きる私たちには、主によって、誘惑は試練となり、神様の約束によって希望と祝福に変わるのです。悪しきものの誘惑から主によって守られ、その悪から救い出してくださいることを、主のみ名によって祈り続ける私たちでありましょう。

**\*共に祈りましょう。**

- ・誘惑多いこの世の中で、主の御守りと助けがありますよう祈りましょう。
- ・様々な試練に遭っているとき、主によって祝福になることを確信して歩み続けることができますように。